

いく必要があると思います。

小林：アフリカ諸国では、国会議員に女性の枠があるため、数値が高めに出ています。しかし、私はそのことだけで男女平等参画になっているとは思えないところもあります。制度的な支えは女性の社会的地位を上げるきっかけとして必要だと思いますが、やはり女性自身が意識を高め、自主的に行動することが伴ってこそ男女平等参画が実現できると思います。

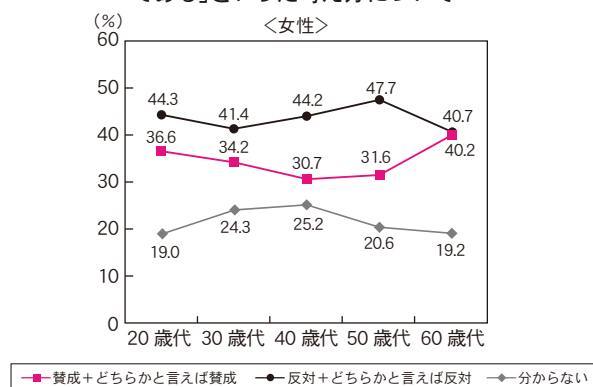
加藤：私はGEM・G・Iについてはあまり深く考えたことがなかったのですが、みなさんの意見を聞いてなるほどと思いました。日本は福祉国家だと思えますので、このような結果は残念ですね。

結婚、そして固定的役割分担

【司会】資料4では、若い女性は専業主婦志向の人が結構多いというデータです。「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方について20歳代の女性、60歳代に続いて2番目になっています。そのことから、20歳代の女性は比較的专业主婦志向が強いということがいえると思いますので、みなさんの考えをお聞きしたいと思います。

加藤：私は小さいころから家庭科の先生になりたいと思っていましたので、仕事も家庭も両方とも大切にしたいという気持ちは今も変わっていません。

(資料4) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方について



(備考) 内閣府「男女のライフスタイルに関する意識調査」(平成21年)より作成

黒川：私も親が共働きという環境もありますので、やはり、家庭にいるよりも外で働きながら、子育てもしていきたいと思っています。家庭ばかりにしていると、どうしても外とのつながりが少なくなる気がしますので、社会に出て働きたいと考えています。

小林：私も仕事をしながらだと思います。今、大学院で学んでいることを仕事でいかしたいからです。仕事をしつつ子どもを育てられる環境があれば良いと思います。

堀内：私も仕事をしながら子育てもしたいと思います。母が働いていましたので、幼稚園の行事などは代わりに祖母が参加していました。小さい時は、やはり母と一緒に過ごしたいという思いもありまし

た。しかし、今考えると働いている母を見て「かつこいい」と思いましたし、常に探究心がある母はすごいと感じました。そのような姿を見ると、やはり、仕事をしたいと思うようになりました。

【司会】みなさんは、専業主婦ではなく共稼ぎをしたいと思いますというようにですが、一般的にはまだ夫が家事や育児を行う時間が少ないようです。そのことについてどのように考えますか？



加藤：私は平等に行ってほしいと思います。私も仕事を一生懸命頑張りたいので、それを応援してくれるような男性が良いと思います。

黒川：私も同じ割合でやるのが良いと思います。男性に比重を多くするのは、逆に男性の差別につながるのではないのでしょうか。やはり、男女平等に行うのが良いと思います。

小林：私の父は家事が苦手ですので、ほとんど家事をする姿は見たことがありませんが、50%ずつにしてほしいという気持ちはあります。

堀内：私も理想は50%ずつですが、その時の仕事の状況によると思います。どちらかの仕事忙しい時は、少しぐらいは

片寄りがあっても仕方がありませんし、できる方が家事を行えば良いと思っています。しかし、お互いに協力して家事を行うということは、男性も女性も知識や技術が必要だと思います。

【司会】みなさん何歳ぐらいで結婚したいですか？



加藤：学校を卒業して何年か働いて結婚はしたいと思っています。何よりも子どもが大好きなので5人ぐらいは欲しいです。働き続けながら子育てをする場合、フレックスタイム制を活用して両立を図るようにできればと思います。

黒川：無理に何歳で結婚するということではなく機会があれば結婚したいです。子どもも欲しいですが、仕事も継続したい。頑張って育児を取りながら仕事を続けようと思っています。

小林：母は私を30歳で産んだので、私も結婚して30歳ごろに子どもを産みたいと考えています。現在の研究を生かして、生まれ育った地域にかかわる仕事をしたと考えています。子どもができたならば産休・育休を取り、子育てが一段落すれば復帰して仕事を続けようと思っています。

堀内：私は希望職種が技術職なので3年間は技術を習得し、知識をしっかり学ばなければいけないと考えています。そのため、26歳までは休めないと思います。